

## 心のつながりをつくる美しいふる里づくり

最近新聞、テレビでは、殺人、放火、いじめ、虐待など毎日のように報道されている。これは、昔にくらべて情報が多くなったこともあげられるが人と人のつながりが気薄になったことが最大の原因ではないだろうか。

なぜ、人と人とのつながりが気薄になったのか。生活も豊かになり、知識も豊かになった。そしてその豊かになった分人と人の考え、気持ちに大きな差ができたのでは、ないだろうか。

一昔まえは、人の助けや協力を得なければ事をなし得ない事が多かった。しかしながら今は、お金さえだせば、一人でもできることが多くなった。

これらのことが人と人とのつながりを気薄にさせてきたのでは、ないだろうか。そして、その豊かさゆえに自分の人生に目的を持たず、自分の行動をコントロールできない人が増えている。

その結果として毎日の報道があるのではなからうか。

よって、これからの人の住む生活空間としては、「物」の豊かさだけを追求するのではなく、「心」によって自然と豊かさが感じられるような「まちづくり」「むらづくり」が必要である。

では、「心」によって自然と豊かさが感じられるようにするにはどうすればよいか。

人は自然と「楽」な方へ流れやすくなり、又「暖かい」方へ集まりやすい。「楽」な方へ流れたものは「行動」に対してはある意味「消極的」になる。「暖かい」方へ集まったものは「積極的」になる。

市街地部では、「便利」いわば「楽」な方向へ人が集まり、郊外部では、その「不便さ」が故に過疎化している。

市街地部では、人の助けを直接必要とする場面は少ない。必要とする行動は、お金により処理されており、人と人とのつながりは気薄となる傾向にある。

今、人と人とのつながりを回復する場所は、郊外部にあるのではないだろうか。

では、なぜ、郊外部には人があつまらないのか。それは「不便さ」故にである。

しかしながら、現在、車社会、情報ネットワークなど地方にいても市街地部にすぐ出かけられ、情報についても市街地とほとんど変わらない時代となってきている。これからは、ますます、その状況は加速するであろう。

よって、これからは、郊外部（山間部、農村部）への人口移動を促すような仕組みが必要である。そして、そこには、人と人とのつながりが保てるようなしくみをつくっておく必要がある。

郊外部への人口移動を促す仕組みとしてまず、都市と都市を結ぶ道路ではなく、郊外部から市街地へ短時間でアクセスできる道路の整備を行う。

そして郊外部（山間部、農村部）では、人口移入がなされやすい制度の導入が必要である。例えば、団地形式ではなく、集落形式（それぞれの家が離れており、周りに畑、山林等を宅地のまわりに持つ宅地の数戸の集まり）での販売を行うことができるよう行政指導で行う。

そして、この集落では、それぞれが、自給自足できる程度の野菜、米もつくることができ、それぞれにより物々交換も行われる。

エネルギー源については、太陽熱等を利用した共同発電システム等を構築する。

また、この集落には、公園敷地を有し、この公園は、つくってやるのではなく、その集落の人により、少しずつつくられていくものとする。

集落内には、若い人たちのみでなく、老人も居住し、この集落がひとつの共同家族となるような「むらづくり」を行う。

これにより、郊外部への定住化が進めば、その周辺には、学校、病院等の施設が建ち、人口の自然移住が図られるのでなかろうか。

以上のような「むらづくり」により「人と人のつながりの再生」と「郊外部の過疎化」への歯止めができるのではないかと思われる。